

特定非営利活動法人山村塾

2018

年次報告書

Annual Report



こめづくり もりづくり ひとづくり
山村塾



＼特集／

山村塾の受入農家インタビュー

山林コース

稲作コース

宮園福夫 × 椿原まり子

聞き役：永田賢介（認定NPO法人アカツキ）

1994年に山村塾の活動がスタートし、25年が経過しました。

稲作コース担当農家の椿原ファミリーと山林コース担当農家の宮園ファミリーの2軒の受入農家が中心となり、たくさんの方々が米づくり、森づくりを楽しんできました。2軒を代表して、椿原まり子さん、宮園福夫さんに、山村塾のことや農林業のこと、地域のことなどを語っていただきました。聞き手は、組織基盤強化（注1）でお世話になっている認定NPO法人アカツキ代表理事/職員の永田賢介さんです。

笠原での暮らし・農業

永田：今日はよろしくお願ひします。お二人とは、組織基盤強化の取り組みでもいろいろと伺っていますが、あらためてお話を聞かせてください。笠原での農業はどういったもので、お二人の家はどういった農業をされていますか？

まり子：基本、笠原はお茶農家。昔は集落ごとに茶工場があって、お茶専業の生産農家でなくとも、どの家でも少しへ茶畠があって、みんな飲み茶（自家用のお茶）を作っていた。私は出身は黒木の町中だけど、幸か不幸か？主人とは大阪で知り合ったんよ。

福夫：我が家はひいじいさんの代より前から農家。百姓ですよ。戦後の昭和30年代から茶工場ができはじめて、機械が動き出し、お茶が盛んになってきた。それより前、お茶は嗜好品もいいところだったんじゃない？一部の上流階級しか飲んでなかっただと思う。一般人は白湯でしょう。お茶が盛んになる前の我が家は、田んぼが少しとお茶が少し、あとは野菜。昭和40年代まではお茶も手摘みでしたから、柳川からも手伝いの人人が来てましたよ。冬は炭焼きもあったけど、うちのおやじはあんまり好きじゃなかったみたい。お金にもあまりならなかったのかも。今の我が家は仕事は、お茶と椎茸、そして山仕事とお米。でもだんだんと喰えなくなってきた。お茶はすべてペットボトル用になって、上物はいらない社会になった。質より量を求めて、平野部の田んぼが埋められて茶畠になっている。山のお茶生産、粗収益はピーク時の三分の一になった。昔1000万稼いでいたとして、今は300万ということ。

山のお茶じゃあ喰えなくなってきた。

まり子：我が家はお米が収入の8割くらいだと思う。あとは露地野菜。露地野菜というのは、ビニルハウスなんかの施設を使わず、自然にまかせて育てるもの。生協との契約栽培で夏はキュウリ、冬はブロッコリー。Uターンで帰ってきた頃は、生活も仕事も大変でした。当時は農協にも出していたけど、だんだんと生協や直売になってきた。柳川に小さな生協があってね、その担当の方から、無農薬の野菜が欲しいと相談があって、「値段はいくらですか？」と聞かれたとよ。その時はじめて、「自分たちで値段つけていいんだ。」と思った。農家は作るだけじゃなくて、自分で売ること、そして値付けの権利があることが大切だと思った。

いろいろな人とかかわる

永田：よく農業、第一次産業の問題をニュースで見聞きしますが、山村塾では農家が直接語ってくれますよね。お茶の消費や農業の変化など、何から情報を得たり、考えたりするんですか？

福夫：それはまず、茶業部会、技術員さん、流通センターなど、専門の人に話を聞くのが一番。地元では、作る側からしか見えない。売る側の人とも意見交換して、話を聞くのが大事。僕らが「いいお茶」と思っても、お茶屋さんの「いいお茶」とは違うんですよ。山村塾でもいろんな人に会う。いろんな職業の人たちと出会う。昔、パイロットの人が来て、「自動運転が間違いない」って話をしていたのが印象的やったなあ。



聞き手：認定NPO法人アカツキ 永田賢介さん（写真左）

まり子：山村塾の最初の頃の会員さんにお医者さんがいて、鴨を捌くのが上手だった。さすがだった。ある時、参加者の方がケガされたことがあって、みんなは慌てたんだけど、お医者さんのその方は「このくらいなら大丈夫。お昼ご飯食べて、ゆっくり病院行ったらいい。」って、落ち着いて対応してくれた。

受入農家から伝えたいこと

永田：山村塾で引き継いでいきたいことはどんなことですか？たとえば先日、山村塾は理事長が変わりましたが、何か引きつぎましたか？

福夫：そもそも理事長とか、そげな玉じゃないんですよ。椿原寿之さんから代表を交代したときも、「設立から15年経ったから、次は福ちゃんの番たい。」と言われただけですから。

まり子：山村塾はかしこまったものはないので、実際はだれが代表とか理事長とか、あんまりぴんとこないかな。そもそも設立時に代表の役職はなかったかも。稻作コースの椿原、山林コースの宮園、事務局の毛利さんという役割があっただけだと思う。

永田：その話は山村塾らしいですね。今も昔も変わらない部分がありそうです。

まり子：うちらも年をとったので、気力、体力、考える部分がある。昔は来るもの拒まずで、なんでもOKだったけど、次の世代のことを考えると、変わらない

といけない部分があるように思う。私も昔は、無口でおとなしかった（笑）。でも山村塾をはじめたことで、言わんといかん、書かんといかん、せんといかんとなってきた。苦手な文章を書くことや、人前で話をすることも、何とか人に伝えたい！という気持ちだけだった気がする。料理でも、ただ美味しいものをつくるだけじゃなく、どうして美味しいのか、旬の野菜を使っているから、自然の調味料を使っているから美味しいということを伝えたい。

昔、福ちゃんが話していたけど、「木もいろんな木がある。外材もある。その中でも、地元で育った木で家をつくるのが一番居心地がいい家だ。」って。食べ物も同じだと思います。食べ物で病気にもなるし、病気も治る。山村塾に参加する人には、そういった良い生活をしてほしいです。

永田：最後に会員さんや協力者の方に向けて、何かメッセージはありますか？

福夫：時間があれば来てください。歳をとられて活動から足が遠のいた方もいますけど、また会いましょう。

まり子：なるだけ家族で来てほしいですね。おじいちゃん、おばあちゃんも一緒に来てほしい。都会的人は、お父さん、お母さんで別々のところで働いている人が多いと思う。山村塾に来て、家族で同じ時間を過ごしてほしいです。

◆編集よりひとこと（小森耕太）

参加する立場からは、農家の考えている悩みや思いを直接聞くことができるのが山村塾の醍醐味です。一方農家にとっても、いろいろな人とのかかわりによって、多様な視点や考え方を知る機会が得られていることが刺激になっているようです。だからこそ福夫さんやまり子さんは野菜の値段から社会の問題まで自分の考えや意見をしっかりと発信することができるんだろうと改めて感じました。これからも農家の声を聞くことができる場づくりを大切にしたいと思います。

(注1) Panasonic NPOサポートファンドによる組織基盤強化の取り組み

一般的な助成金は森づくりや棚田保全などの実践活動を支援しますが、サポートファンドはNPOの組織を基盤強化することを目指しています。山村塾では2018年1月から支援を受けており、認定NPO法人アカツキさんには、会議での論点を整理したり、何からやるべきなのか、無理なく進めるのか、など伴走支援型で一緒に考えていただいています。

1 活動コース（稻作コース・山林コース）



稻作コース

アイガモと一緒に、環境にやさしい米作りを行う稻作コース。田植えや稻刈りのほか、田んぼの草取りやアイガモのお世話など、1年を通じて棚田での米作りに取り組んでいます。

2018年度は特に**家族での参加が増え**、毎回大変賑やかに、ちびっこからお年寄りまで一緒に田んぼで活動しました。

また、今年度より「もちつき・しめ縄づくり」が行事となり、稻を使った加工品づくりもみんなで体験しました。

活動場所：四季菜館と棚田

回数：7回

参加者：延べ352名

スタッフ：延べ50名

山林コース

様々な生き物がすめる森づくりを目指す山林コース。

2018年度は、山村塾設立以来の活動フィールド、ケヤキ林での下草刈りや間伐、元竹林でのスギ・ヤマザクラ植林などの森づくり活動を行いました。

また、活動のなかにグリーンウッドワーク（生の木を使う木工）を取り入れ、**親子で森を楽しむ機会**をつくることができました。

活動場所：ケヤキ林、えがおの森、
上鹿子尾地区内の森林

回数：5回

参加者：延べ79名

スタッフ：延べ30名



参加者の声

家族で参加できるのがいいですね。山村塾に来ると、知らない人同士の交流ができる、初めて会った子どもたちも皆で楽しく遊んでいます。小2の娘と年長の息子も山村塾に行きたがっています。

個人的にはかつて下草刈り作業後、山で食べたそうめん流しが美味しかったことが忘れられません。山村塾の活動は、適度に休憩とりながらの作業なので、普段運動をしていない人でも気軽に参加できると思います。植林や下草刈りで関わった苗木や幼木が、その後すくすくと成長し、山の形が変化していくを見られるのも楽しみです。

山林コース会員 内田 和実さん

子どもが子どもらしく遊べる環境が少ない中、ここに来ると走り回れる環境があり、自然が遊び道具。葉っぱ一つ、枝一つで遊びが広がるし、発見もいっぱいある。初めて会った子達とも、すぐに子どもの世界ができて、みんな目がキラキラしてる。

稻作コースに入り、初めは土の感触が苦手で田んぼに入りたがらなかった息子でしたが、2年目に入り、今年は自ら田んぼに入り、草取りしてくれる姿に成長を感じています！家族で共通の体験をすることで、話題も増え、お互いをより思いえるようになりました。親子共々、身体も心も育つ良い環境が山村塾はあるので、これからも来続けたいです。

稻作コース会員 江里 文子さん

2 研修事業

福岡県森林づくり活動安全講習会

主催：福岡県

福岡県内の森林ボランティアを対象とした県主催の安全講習会を実施し、山村塾は事業の企画・運営を担当しました。今年度は森林ボランティアの基礎知識、手道具での森林整備、動力（草刈機・チェーンソー）の安全な取り扱いに関する講座を全9回開催しました。

開催場所：八女市、久留米市、福岡市、北九州市、
大牟田市

受講者数：講習会159名、出前講座25名、計184名

実施日程・回数：7月～2月 講習会9回、出前講座3回



自伐林家育成研修

主催：福岡県

福岡県森林環境税の取り組みの新事業として、2018年度より「自伐林家育成研修」が始まりました。週末や仕事の合間などを活用して地域の森林を守る「自伐林家」を育成し、荒廃した森林の再生を担う人材を増やすことを目標としています。山村塾では研修の企画・運営を担当し、安全な林業技術の習得を目指してチェーンソー・刈払機の取り扱いや伐木造材作業等の研修を開催しました。

開催場所：八女市、久留米市、広川町

受講者数：8名

実施日程・回数：8月～3月 全9回（延べ22日間）

3 笠原棚田米プロジェクト



月に1度、サポーターに棚田米を発送する「笠原棚田米プロジェクト」。平成24年九州北部豪雨からの復興と棚田の風景を受け継いでいくことを目指し、「5年間買うぞ」を合言葉にスタートしたプロジェクトは無事6年目を迎えました。それに伴い目的は「美しい棚田を次世代に引き継ぐ」に重点を置き、合言葉は「食べて守る！」と変更。サポーター制度もリニューアルし、募集チラシを新しく作成しました。

また、生産農家の努力で目指してきた「**全量特別栽培米**」への移行を達成。栽培基準の引き上げに成功しました。



サポーター数：87名（個人85、企業2）

参加農家：8軒

取扱俵数：110.25俵

守られている棚田面積：18,375m²

(110.25俵→183.8a 収穫6俵／10aとして)

※企業は新日本製薬株式会社、うなぎの大東に
ご協力いただいています。

4 合宿ボランティア

2018年度は計3回の合宿ボランティアを開催。日本、フランス、台湾、香港、ロシアから**計23名のボランティア**が参加し、棚田の草刈りや米作り等を行いました。ここではその中から、2つの取り組みについて報告します。

1. 里山80日ボランティア2018夏 (4/28~7/16)
80日間、5名
2. 台日交流ワークキャンプ2018夏 (7/18~7/26)
9日間、15名
3. 奥八女芸農ワークキャンプ2018 (8/24~9/20)
28日間、3名

里山80日ボランティア2018夏

共催：NPO法人NICE日本国際ワークキャンプセンター

2018夏の80日ボランティアには、3つの目標がありました。

- 1.山村の豊かな自然を守ること。
- 2.田舎の良さを発信し、都会とのつながりを強化すること。
- 3.地域と連携し、積極的に異文化交流を行うこと。

80日間の共同生活と、草刈りや田んぼ仕事などハードなワークを乗り越え、山村塾のイベント参加者や地域の皆さんと交流し、目標達成のために頑張りました。

※事務局ファン（私）にとっては、初めて担当した合宿ボランティアであり、スタッフとしての立ち位置をキープすることとメンバーたちとより親しくなりたい気持ち、両者間のバランスをとるのが難しかったです。



参加者：フランス人3名、日本人2名

成果：棚田の草刈り（1ha）、イベント参加（8回）、農家ワーク（6軒）、作物づくり（米、ラッキョウ、夏野菜）

奥八女芸農プロジェクト

共催：九州大学ソーシャルアートラボ
NPO法人NICE日本国際ワークキャンプセンター



撮影：富永亜紀子

ワークキャンプ参加者：香港人2名、ロシア人1名、アーティスト1名

奥八女芸農学校参加者：8名

成果：棚田の草刈り（1ha）、アート作品（民俗芸能試作）、
イベント参加（3回、奥八女芸農学校と発表会を含む）、作物づくり
(米、ラッキョウ)

九州大学ソーシャルアートラボと連携し、「奥八女芸農ワークキャンプ」を実施しました。演出家の武田力さんをアーティストとして招き、「笠原に新しい芸能（芸農）をつくる」ことを目指しました。期間の前半は農作業とフィールドワークを通じて、地域のことを理解する時間とし、後半はワークショップやリハーサルに専念し、芸能を試作しました。

また、ワークキャンプ期間中に2泊3日の合宿型講座「奥八女芸農学校」を開催し、8名の一般参加者と講師を迎えて「地域とアート」「農とアート」についてじっくり考える時間を持ちました。

※武田力webサイト <http://riki-takeda.com/>



5 里山での福祉



「社会福祉法人たからばこ」との森林整備

月に2回、柳川にある障がい者施設「社会福祉法人たからばこ」の皆さんと山村塾のボランティアとで、森の整備や畠仕事を行っています。「たからばこ」の皆さんには、普段の街なかでの暮らしそとは異なる環境での活動に、楽しんで参加してくれています。

主な作業は森林整備で出てきた木材を活用した薪づくり、**薪集め**です。集めた薪は柳川市まで持ち帰り、**ウッドボイラーの燃料**として利用されています。

活動参加人数：総計166人日

実施回数：19回

活動内容：森林整備、棚田保全（草取りなど）

言葉の表現が難しいNさんは、雑木を倒したり、枝を落とすのが上手。毎回必ず参加してくれます。ノコギリ仕事も頑張っています。

体を動かすのが好きなTさんは、柳川の作業場より広い山に来て、枝と落ち葉を拾うのに一生懸命になっています。山を歩くのが好きで、休憩の時、ついつい奥へ奥へと登っていきます。

連携先の声

*奥八女芸農プロジェクト事業



長津 結一郎さん

九州大学大学院芸術工学研究院
助教

新しい社会のあり方を、笠原から共に

本学の附属組織であるソーシャルアートラボの活動で、アーティストが滞在制作をする企画「奥八女芸農プロジェクト」を共に考案、実施させていただいている。山村塾との協働でいつも印象に残るのは、常に笠原地区のことを大切に思う姿勢と、新しい社会のあり方を構想するNPOとしての攻めの姿勢との、バランスです。これからも、「アート×農」の取り組みを通じ、新しい社会のあり方を、笠原から共に投げかけてゆければと思います。

*合宿ボランティア事業



井口 育紀さん

NPO法人NICE日本国際ワークキャンプセンター
事務局長

合宿ボランティアのお手本

山村塾さんは2008年から事業を行っています。これまでに様々な期間、色々な国のボランティアを受け入れて頂きました。国際ボランティアとして笠原地域の社会課題に取り組む活動のサポート、えがおの森を拠点とした伝統的なライフスタイル。そこにバラエティ豊かな地域の方々というスペイスが活動の魅力を引き立てます。まさに合宿型ボランティアのお手本となる地域です。これからも一緒にワークキャンプメントを起こし続けていきましょう！

役員・職員紹介

▷理事

2019年6月の総会にて、これまで10名だった理事は6名（うち新任1名）となり、理事長も宮園福夫から小森耕太へ交代しました。役員体制をスリム化することで、理事会運営、事業運営にスピード感を持って取り組むことを目指します。

理事10名→6名に



理事長/
事務局スタッフ
小森 耕太

2000年に山村塾スタッフになりましたので、今年で20年目を迎えます。そして6月1日から理事長となりました。大役ですが、理事や会員の皆さんと一緒にがんばります！都市で暮らす人、子どもからお年寄りまで、いろいろな人たちが山村に訪れ、暮らし、汗を流す。山村塾を通じて、そういうことが広がることを期待します。



理事/
山林コース担当
宮園 福夫

今回理事長の役を引き継ぎ、ほっとしています。また、山林コースの活動にご協力いただきありがとうございます。みなさんと考えたいのは、日本で木を使う文化が浸透し、木を有効活用できる社会になるといいなということです。引き続き理事を務めます。よろしくお願ひします。



理事/
稲作コース担当
椿原 壽之

山村塾創立3家族の一員として関わる事、それを大切にしていかなければ、の思いしかありません。



理事（新任）
石津 和紀

家庭菜園の勉強、及び、小2と小4の子供の食育をきっかけに入会して10年目です。当初は家族4人で参加していましたが、ここ数年は、多くが単身参加となっています。

山村塾では、多くの学びや出会いがあり、心が安らぎ、胃袋は満たされ、とても満足、感謝しています。日本酒にもすっかりはまり（誰だ、犯人は！）、家でも毎晩純米酒を堪能しています。

山村塾との関わりや楽しみ方は人それぞれ。多くの方が満足頂けるよう、会員の視点で盛り上げていきたいと思います。アイディアをお持ちの皆さん、是非語りましょう。任期の2年間、よろしくお願ひします。



副理事長
森永 哲夫

2018年度は、組織基盤強化に取り組み、また認定NPOを目指す方策や中長期ビジョンなどに関する討議も行いました。理事の役割をそれなりに果たしたと思いますが、満足出来るレベルではありません。山村塾のあるべき姿を追って、3期目になりますが来年度も引き続き理事を務めます。どうぞ宜しくお願ひします。



理事
木村 陽子

山村塾と出会って20年になります。世の中が急速に変化する中、山村塾はNPO法人化しつつ、里山保全と食の安全を貫いてきました。地球温暖化・ごみ問題等...。生物の皆さん・地球さん、ご免なさい！人間の生活を変えるべき時がきています。Think globally, act locally!

▷監事



監事
覚知 康博

柳川市在住で、障害者施設の管理者をしています。監事として以下3点を気がけていきたいです。①山村塾がずっと続いていること②そのために財政が安定し収支差額が50万円程度であること③その結果職員の身分保障も考えていけることです。会員としては森林と稲作の行事に各々年一回は参加したいです。（最近行けてないので）



監事
川原 秀之

私が山村塾と関わったのは2001年からで19年目になりました。時間のたつ早さに驚いています。笠原の魅力は物質的なものではなく精神的に落ち着かせてくれるものがあります。それは人によって求めるものが違いますが、私は視界に見える景色や空気の美妙しさ、そして地域の皆さんの人柄の良さです。これからもニーズに合わせて変化することを望んでいます。

▷退任理事



稻作コース担当
椿原 まり子

平成3年の巨大台風17・18号！そして平成5年の冷夏と米不足...。この現状をふまえて、平成6年に山村塾は立ち上りました！環境に負荷を与える循環型、保全型の農業をやり続けることは、次世代にも継承するべき事です！山村塾は永遠に不滅であるべきです！



山林コース担当
宮園 佐津美

5月まで理事として関わらせて頂いておりました。ありがとうございました。これからは山林コースの受け入れ担当としてこれまで同様お会いします。今後ともよろしくお願いします。



事務局スタッフ
小森 文子

理事は退任し、事務局スタッフとしての役割に専念します。会員や理事の皆さんに山村塾をより理解し、応援して頂けるよう、日々の実務をコツコツ積み重ねていきたいと思います。小さな改善が得意で大好き。これもコツコツ実行し、大きな変化へつなげます！



山村塾相談役
毛利 宗孝

放置された棚田や荒れた山を何とかしようと山村塾を呼びかけ、多くの色んな方が参加し25年が経過し、山村塾は質量ともに大きく成長しました。私は5年前に悪性リンパ腫（血液のがん）を発病し、がんと共に普通の生活を送っています。今回責任ある理事を辞め相談役として一步引きながらも、生涯の取り組みとして山村塾に今後もかかわっていきたいと思いますので、よろしくお願いします。



活動コース会員
樋口 淳一

理事を仰せつかったときに自分にできることは何だろうと考えました。やはり福岡でのPR活動だと思い、職場の同僚や友人をイベントに説明したがなかなか定着しませんでした。定年退職後沖縄で暮らしています。来年福岡に戻りましたら別の角度からもう一度考えていくと思っています。理事退任後もよろしくお願いします。

▷事務局スタッフ

常勤3名、非常勤3名

ファン ポウェイ

台湾出身です。合宿ボランティアの担当です。みなさんの引率をしながら、山や田んぼでの修行をしています。

柴尾 悠

笠原棚田米プロジェクトの担当をしています。毎月の発送作業のあと、農家さんと美味しいおにぎりを頬ばっています。

小森 耕太

事務局長→理事長になりましたが、事務局の仕事は変わらずやっていきます。よろしくお願いします！

原 愛子

稻作・山林コースの行事、ミニワークと広報を担当しています。田んぼや山でみなさんと一緒に汗を流す時間が好きです。いつもご参加ありがとうございます！



小森 文子

会計など、総務部門を担当しています。正しい数字と正しい法人運営で山村塾を支えます！

金澤 真里

合宿ボランティアの食材の買い出しや、らっきょう作りを担当しています。山村塾で、いろんな経験をさせてもらっています。



笠原棚田ヤギのみなさん（6頭）
棚田の草刈りを担当しています。

山村塾では一緒に働いてくれる常勤職員・研修生を募集しています！詳しく述べてお問い合わせください。

会計報告

2018年度 財務諸表

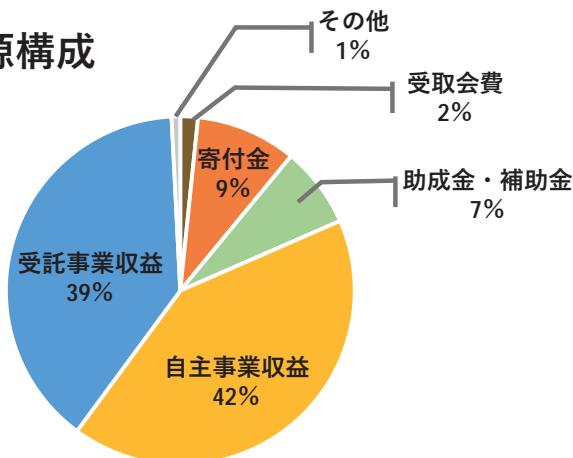
活動計算書 (2018年4月1日～2019年3月31日)

科目		金額(円)
経常収益	受取会費	540,000
	受取寄附金	3,078,505
	受取助成金・補助金	2,471,557
事業収益	自主事業収益	13,753,983
	受託事業収益	12,909,936
	その他収益	264,484
	経常収益計	33,018,465
経常費用	事業費	7,072,002
	人件費	6,572,815
	商品仕入高	笠原棚田米仕入れ代金等
	諸謝金	1,920,500
	業務委託費	3,295,070
	食材料費	活動コース農産物、食事代等
	消耗品費	1,275,557
	その他経費	1,817,200
	人件費	笠原棚田米資材、研修事業資材等
	その他経費	6,770,564
	管理費	2,337,048
	その他経費	保険料、えがおの森賃借料、宅急便代等
	経常費用計	32,071,976
経常外収益		116,057
経常外費用		103,256
法人税、住民税及び事業税及び消費税		849,400
当期正味財産増減額		109,890
前期正味財産増減額		837,532
次期繰越正味財産増減額		947,422

貸借対照表 (2019年3月31日現在)

資産の部		負債の部			
科目	金額(円)	科目	金額(円)		
流動資産	現金	446,981	流動負債	未払金等	9,237,336
	預金	7,812,327		流動負債計	9,237,336
	棚卸資産	2,403,500	固定負債	長期借入金	4,039,500
	未収入金等	711,589		固定負債計	4,039,500
	流動資産計	11,374,397		負債の部 計	13,276,836
固定資産	建物	2,579,795	正味財産の部		
	車両運搬具	1	正味財産	前期繰越正味財産	837,532
	機械装置	266,390		当期正味財産増減額	109,890
	保証金	3,675		正味財産の部 計	947,422
	固定資産計	2,849,861			
資産の部 合計	14,224,258	負債・正味財産の部 合計	14,224,258		

財源構成



2018年度方針と総括

「参加費見直しや寄附呼びかけ強化、事業数見直しなどを検討し、単年度黒字化を目指す」ことを方針に掲げ、事業に取り組みました。

結果、単年度赤字からは脱却しましたが、充分な黒字化とは言えず、収益向上のためには、赤字事業の改善に取り組む必要があります。

ご寄附について

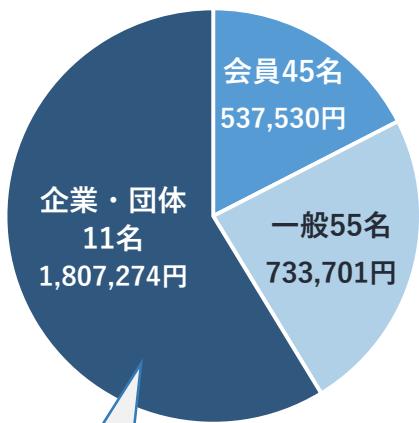
111名の方々から計3,078,505円のご寄附を頂戴しました。

山村塾の取り組みを応援いただき、誠にありがとうございました。

寄附金内訳（事業別）

項目	金額	備考
一般寄付金・ヤマヤマ基金等	2,924,505円	棚田や森林を守る取り組みに活用させていただきました。
平成29年豪雨	114,000円	平成29年九州北部豪雨により被災した朝倉市黒川地区の復興に役立てました。
笠原復興基金	40,000円	平成24年九州北部豪雨からの復興のため、笠原地区の棚田保全事業に役立てました。
計	3,078,505円	

寄附金内訳（寄附者属性）



※賛助会費は受取会費に計上し、この金額には含まれていません。

▶企業・団体からのご寄附について

公益社団法人日本フィランソロピー協会（かんぽ生命寄付プログラム）、KDDI株式会社九州総支社、あいおいニッセイ同和損害保険株式会社、かってに林業を応援する会、株式会社ファンケル、株式会社ベストコミュニティ、宝箱職員会、古本募金きしゃぽん、有限会社朝日屋酒店、株式会社 グリーンクラフト（敬称略）

※詳しくはホームページにて報告しています。 <http://sansonjuku.com/news/archives/category/news>

災害支援

平成29年九州北部豪雨への支援（朝倉市黒川地区）



朝倉市黒川地区は平成29年7月九州北部豪雨により、家屋や道路、農林地等に甚大な被害が発生しました。住民の多くが仮設住宅で暮らしており、農業や生活を含めた農村の復興にはまだまだ時間がかかります。

山村塾は、この地域の復興に取り組む黒川復興プロジェクトと連携し、募金活動や補助事業の事務局業務、安全講習会のお手伝いといった後方支援に取り組んでいます。

※黒川復興プロジェクト（代表：柏田智さん）

被災した農地や家屋の土砂出し作業、農業支援、農道や農地の草刈り、被災農地での景観作物栽培などに取り組んでいます。

<https://asakurafukko.wixsite.com/kurogawafukko>

開催場所：朝倉市黒川地区

農地復旧作業など：延べ34日間、計553名が参加

復興座談会等：延べ11回、計229名が参加

ご支援のお願い

山村塾の活動は、皆様からのご寄附で支えられています。
山村の暮らしに学び、山村の環境を守る取り組みに
ご協力をお願いします。

山村塾は、運営組織や経理が適正で、事業活動に公益性が保たれていることが認められ、平成29年7月1日付で、福岡県より「特例認定NPO法人」として認定されました。2019年8月31日現在、福岡県内に1743団体のNPO法人があり、このうち27団体が認定・特例認定NPOです。
認定NPO法人制度は、NPO法人への寄附を促すために国が設けた税制優遇制度です。
山村塾へのご寄附は、確定申告することで寄附金控除の対象となります。

<参考>内閣府NPOホームページ（認定制度について）
<https://www.npo-homepage.go.jp/about/npo-kisochishiki/ninteiseido>

▶ご寄付の方法：払込取扱票をご利用、または下記口座へお振込みでご寄附をお願いします。

郵便振込口座から

【加入者名】特定非営利活動法人山村塾
【口座番号】01790-3-169398

銀行から

【金融機関】ゆうちょ銀行 【店名】一七九（店番179）
【口座番号】当座0169398

※銀行からお振込みされた方は、お名前とご住所またはメールアドレスを事務局までお知らせください。



山村塾は1994年に2軒の農林家と会員有志によって、棚田と山林を守る取り組みをスタートしました。都市と農山村の住民が一緒に、環境にやさしい米づくりや豊かな生態系の森づくりを通じて、山村の環境を守る活動と、その活動を支える交流や人づくりを行っています。

特定非営利活動法人山村塾

〒834-1222福岡県八女市黒木町笠原9836-1
TEL・FAX：0943-42-4300 E-mail：info@sansonjuku.com

<http://sansonjuku.com>

@sansonjuku

